

2012225

絵本学会 NEWS No.44

発行：絵本学会

発行日：2012年2月25日

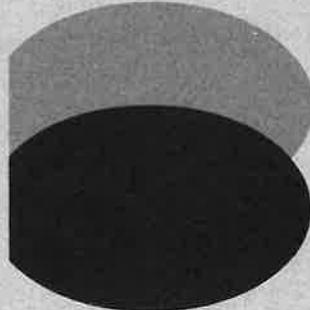
編集：絵本学会広報委員会

絵本学会事務局：〒567-8578 茨木市宿久庄2-19-5

梅花女子大学児童文学科 香曾我部秀幸研究室内

E-mail:ehon-g@baika.ac.jp

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~ehon/index.html>



第15回絵本学会大会のお知らせ
『絵本の事典』出版の反響について
振り返ってみると 澤田精一
事務局からのお知らせ
お知らせ－絵本関連展覧会など

絵本学会

第15回絵本学会大会開催のお知らせ 絵本からはじまる 絵本からつながる

第15回絵本学会大会が2012年6月2日(土)・3日(日)の2日間、熊本県山鹿市で開催されます。

メイン会場となる「八千代座」は、明治42年に建てられた江戸時代の伝統を受け継いでいる芝居小屋で、今でも現役で使われています。その活用は、坂東玉三郎公演から地元小学生の発表会まで多岐にわたっており、市民に愛され活き続けている国指定重要文化財です。大会プログラムは、以下の通り予定しております。

●大会テーマ：絵本からはじまる 絵本からつながる

●期日：2012年6月2日(土)・3日(日)

●メイン会場：山鹿市「八千代座」

●参加費：会員 2,000円、一般 3,000円（1日のみ参加の場合
2,000円） 大学生以下無料

●プログラム

■6月2日(土)

11:00～受付開始

12:00～開会式

12:30～八千代座特別公演

○「山鹿灯籠 夢日記」「てくてく座 寸劇仕立て 浪曲入り」

脚本・演出：飯野和好

出演：飯野和好、ささめやゆき、あべ弘士、中川ひろたか、
長谷川義史、長野ヒデ子、山本孝、大友剛、小林美香子 他

13:20～特別公演出演者による座談会

「絵本が好きでしようがない」

15:00～研究発表

16:00～ラウンドテーブル

○R-1「絵本の演劇性」

話題提供者：飯野和好、中川ひろたか、山口マオ、長野ヒデ子

コーディネーター：飛岡光枝（小学館編集者）

○R-2「絵本と人権」

話題提供者：綱美恵（解放出版編集者）、黒田征太郎、
内田麟太郎、長谷川義史、山本孝

コーディネーター：松本猛（安曇野ちひろ美術館顧問）

○R-3「九州から送る風」

話題提供者：横田幸子（熊本子どもの本の研究会）、
高野和佳子（NPO法人ペペペペらん）、ささめやゆき、
あべ弘士

コーディネーター：広松由希子（絵本研究家）

18:00～絵本学会定期総会

19:30～交流会

■6月3日(日)

8:30～受付開始

9:00～作品発表

10:30～研究発表

12:00～昼食・休憩

13:15～詩の朗読：内田麟太郎、琵琶の演奏：山口マオ

○シンポジウム

テーマ「絵本の大衆性」

パネリスト：佐木隆三、黒田征太郎、福元満治

コーディネーター：横山真佐子

15:20～閉会式

事務局：絵本とおはなし 風吹きからす（代表 大坪恵理子）

連絡先：第15回絵本学会大会実行委員会

電話：080-2708-5978（大坪） 080-5280-6566（山崎）

FAX：0968-43-0874

メール：yamasaki.hisao@city.yamaga.lg.jp

『絵本の事典』出版の反響について

中川 素子

2011年11月30日に世界でも始めての『絵本の事典』(朝倉書店)が出版された。編集委員を務めたのは、私、中川素子と吉田新一、石井光恵、佐藤博一の4名である。執筆者は100名を超えるが、その多くが絵本学会会員である。ご協力いただいた皆様に、編集委員一同より心からの感謝を伝えたい。

『絵本の事典』の目次章立てや内容については、この2月に出版される絵本学会の機関誌『絵本 BOOK END』に書かせていただいたので、重複をさけるため、ここでは、マスコミなどによる『絵本の事典』の反響を紹介させていただく。

『絵本の事典』は出版以前から興味をもたれ、朝日新聞では9月だったか、かなり早い時期にお知らせがのった。出版後も絵本関係者ののみでなく、社会的にも話題となっているのか、多くのメディアでとりあげられている。書評、紹介、インタビューなど、それぞれの形態は違うものの、合わせて読むことにより、『絵本の事典』の性格をご理解いただければと思う。

「読み楽しめる事典内容に」という見出しの雑誌『モルゲン』1月号(1月10日)では、東京中村中学・高校司書教諭 岡田富美子先生により「絵本の歴史は、各国に分けて詳細に書かれ、お国柄がよく出ている。時代時代の作家についての解説も詳しい。絵本の技法や材料など幅広く紹介されている。手法ごとに著名な作者を挙げて紹介しているので、イメージもつかみやすい。(中略)五年の歳月をかけ、百名を越す各分野の専門家が執筆して完成した本書は、単に事典の域を超えた絵本研究の集大成ともいえる。(中略)本書も研究者だけを対象とするのではなく、一般にも、項目を拾いながら、読み楽しめる内容となっている。」と、多大なお褒めの言葉をいただいた。

「学問としての充実を目的に」という見出しの教育新聞(平成24年1月23日号)では、「平成9年に日本に絵本学会が発足してから15年が経つが、学問としての『絵本学』が完成しているわけではない。そこで絵本に関する事項ができる限りとりあげ、多くの関係者が自らとは異なる考え方にも目を向け、活発な討議や研究がなされ、絵本学が充実していくことを目的につくられた。(中略)資料も豊富でレイアウトも見やすく充実している。」と評されている。

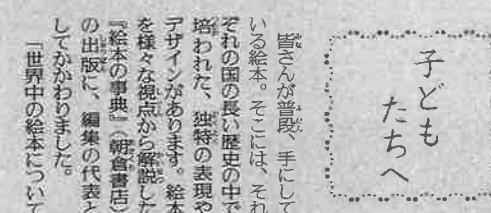
朝日新聞読書欄の情報フォルダー(2012年1月15日)では、今までの絵本研究の場でとりあげられることのなかったソ連の絵本の検閲について田中泰子が書いていることが紹介されている。短い文だが、子どものものという括りでしかマスコミに登場してこなかった絵本イメージの大きな変換を為しとげた記事といえる。

また信濃毎日新聞(2012年1月28日)では、「『絵本と美術』の章では、ダダ、シュールレアリスムといった美術の潮流との関わりを取り上げた。『絵本と諸科学』では、物理学、小児医学、脳科学、女性学、建築など各方面から絵本を論じている。」と、他の事典にはない章に気付いていただき、雑誌「私の時間」(2012年2月号)では、「絵本をさまざまな角度からとらえていねいに解説したまさにこれ一冊で絵本のすべてがわかる絵本学の決定版」と書かれ、毎日新聞「ブックウォッキング新刊」(2012年1月18日)でも紹

介していただいた。今後も週刊読書人、静岡新聞と次々に紹介されていくことと思うが、一例として読売新聞読書欄「こどもたちへ」(12年1月14日)にのったインタビュー記事をここにのせてみる。

さて、学校図書館速報版「子ども・本 この人に聞く interview
中川素子さん」(12月1日)と掲載時期は早かったが、その中で
私が話している言葉を最後に書かせていただく。「まだ“絵本学”が
完成しているわけではなく、事典は早い、という声もけっこうあり
ました。でも、とにかくやってみないと始まらないと、一冊の中に
もいろんな考え方があってこそいいのではないかと思って作り始め
ました。私は、これが完成形だとは思っていないんです。これが出
ることによって、今後取り組むべきことがらも見えてきたように思
えます。」

この言葉のように、絵本学会員の皆様の活躍により、『絵本の事典』の内容が古くなるくらいに、新しい領域の研究や新しい発見を次々にしていただければと願っている。



『絵本の事典』の編集に携わった文教大学教授

中川 素子さん 69



朝倉書店から依頼を受けて、編集を始めたのは5年
前。自ら筆を執る傍ら、100人を超える学者の作
家たちも執筆を依頼し、内容が偏らないように工夫
しました。

自身は、優れた日本デザ
インや、ユニークな絵の表
現ないし、美術の視点から
絵本の面白さに注目して研
究を続けてきました。「絵
本の事典」の中では、絵本
の起源について解説してい
るほか、開くと絵が飛び出
すもの、ページに穴を開け
たデザインなど、美術セン
スが生きている絵本につい
て紹介しています。

例えば、「絵本のメディ
ア・リテラシー」という章
では、絵本の表現の自由
さについて、「絵本にかか
わるさまざま人々に、その
人の望んでいる姿を見せ
られない」と記しました。
現在は、学校を題材にし
た美術作品の中に見られる
子どもの姿から、教育現場の在り方を考える著
書を執筆中。絵本を、単なる「幼い子どもが読む本」
として見るのはなく、芸
術として問い直していくつ
もりです。

「純粹」に見て楽しく、
アイデアにあふれた絵本に
は、芸術的な価値がありま
す。「ためになるから」と
大人に読められた絵本を説
むのではなく、「子どもたち
自身にいい絵本を見発見して
ほしいですね」（貴）

2012年(平成24年)1月14日 夕刊読売新聞



振り返ってみると

澤田 精一

7

2011年の4月、62歳満了日をもって福音館書店を定年退職となりました。38年間、勤めしたことになります。そのなかで編集部に在籍したのは20年ちょっとでした。「子どもの館」「こどものとも」「こどものとも年中向き」「こどものとも年少版」「かがくのとも」を担当してきました。各セクションの在籍期間は、振り返れば短いのですが、これだけ各ジャンルを担当した編集者もいないです。

1973年に入社した頃は、社長の松居が40代後半で、社員の平均年齢が28歳くらいの若い会社でした。戦後の子どもの本を創った著者の方々も健在で、そういう人たちと会えた最後の世代でした。光吉夏弥、瀬田貞二、石井桃子、渡辺茂男、いぬいとみこ、堀内誠一、瀬川康男、中谷千代子、乙骨淑子、矢川澄子、岸田衿子……、今や、いずれも鬼籍に入られて感慨深いものがあります。

そればかりか、神保町のランチョンで昼食をしていると、高笑する吉田健一を目撃したり、路上の電話ボックスから中村光夫がてきてアッと思つたり、三省堂で本を探していると隣に吉本隆明がいたのに気がついたり、文士バーで野間宏に緊張しまくって挨拶をしたり、同じく川村二郎から小林秀雄は勉強不足だという話をうかがつたり……、そういうこともあります。

1991年に再び編集部にもどると、今度は絵本の編集を担当することになります。もう光吉夏弥さんも、瀬田貞二さんもおりません。頼りは自分だけ。そこで現代美術の大竹伸朗さんに絵本をお願いしたりと、そういうことがはじまるのですが、やはりいろいろ試みながら企画編集していく作業と、そしてできた作品をどのように評価していくのか。そのことが自分のなかで問題となりました。実作と評価。作家と評論家。そのふたつがそろっていないと、新しい作品はなかなか認知されないし、その作品の位置も決まらないはずです。ちなみに日本の戦後文学は、三島由紀夫、大江健三郎などの作家と、平野謙、中村光夫などの評論家のタッグでその地位を築いていった経緯があります。しかし絵本の世界で評論家と呼ばれる人は、その当時、ほとんどいないといっていい状況でした。

このことは今でも、そのままになっていると思います。アンケートや紹介・解説の類はたくさんありますが、1冊の絵本をめぐってのクリティシズムはなかなかお目にかかるない。いや、そういうクリティシズムが成立するには、そのための土壌が必要でしょう。学生時代の乱読のなかで、T·S·エリオットや、I·A·リチャーズ、J·B·ブリーストリなどの評論は必読図書でした。そういう仕事をどうか、そういう精神の営みというか、そういうものを肌で感じた者にとって、絵本を語るそのなかに、とても言い難いのですが、なにか非常に希薄なものを感じていました。

そこで絵本の編集をしながら考えていこうというか、いやむしろこういうことを考えながら絵本の編集にむかうということになっ

ていきます。90年代の初めでした。今までお付き合いのあった最首悟さんが、独自な思想を産みだそうとしていた時期もありました。最首悟さんは当時、東京大学教養学部の助手でした。助手は遠からず助教授になることが約束されているのですが、東大闘争がからんで、万年助手の待遇を受けていました。しかも東大では、助手は講義をすることができないのです。

そこで私が一对一で最首さんから講義を聴いてもいいのだけれど、そななならば会場を借りて、最首さんの思想が生まれるのをみんなで目撃しようということで、連続講演会「子どもの本にひそむもの」という会を組織しました。「子どもの本にひそむもの」は、会の名称ではありません。演題です。いつ来ても、いつ止めても、自由です。皆勤しても卒業証書は与えようがない。会場で最首さんの話を聞いてそれでお終いという集まりです。こういうとき、よく「〇〇塾」という名称を使う例があるのですが、それはダサイと思いました。その連続講演会は1992年から隔月の土曜日、神保町の学士会館で開きました。参加者はだいたい毎回20名前後ですが、のべにすれば相当な数のぼります。そして2001年頃、50回を数えるあたりで、なんとなく終わったというか、終わりもまたないような案配で終了しました。

この「子どもの本にひそむもの」は、確かに最首さんの思想の土台をつくっていったと思います。しかし編集者としては、著作に結実しない活動はどうなんだという疑問がないわけではない。そして思想家・最首悟は誕生したのだけれど、絵本評論家・最首悟はいなかつた。いや、思想家・最首悟は絵本の評論もやるだろうけれども、それは最首さんの思考の中心にはないということが、ちょっと残念といえば残念なんです。

しかし振り返ってみれば、「コンセプチュアル・アートの旗手を絵本の世界に引き込んだ(『はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ』ミネルヴァ書房、p.393)」ことからはじまって、まったく地道な講演会を続けながら、今まで福音館と縁のなかった何人もの作家に依頼したり、そして編集だけでなく、絵本コンペの審査員をしたり、大学で教えたり、あちこちの雑誌に絵本についての文章を書いてみたり、専門誌の編集委員をしてみたり……。なんでこんなにいろいろなことをしたのかと思います。好奇心? いや、私にとって絵本という表現は自明のことではなかった。だから、いろいろなアプローチをしなくてはならなかった。そういうことは、福音館の編集者をはじめ、プロの編集者はやらないでしょう。ということは、私はアマチュアとしての資質がそうとう強かったのではないかと思います。どうもアマチュアのほうが、思いもかけないことをやるんですよね。

事務局からのお知らせ

第4回 絵本学会理事会 議事録

日時：2012年1月9日(月・祝) 13:30から16:00まで

会場：日本女子大学児童学科会議室

出席者：中川素子(会長)、香曾我部秀幸(事務局長)、石井光恵、今井良朗、今田由香、大橋眞由美、杉浦篤子、永田桂子、長野ヒデ子、藤本朝巳、大坪恵理子(第15回大会実行委員会事務局長)、勘角幸子(第15回大会実行委員会)、山崎寿雄(第15回大会実行委員会・山鹿市職員)

議長：中川会長

○会長挨拶

○報告・審議事項

1. 第15回絵本学会大会の計画について(大坪恵理子大会実行委員会事務局長)

・共催として、山鹿市と山鹿市教育委員会の協力が得られることとなり、会場(八千代座)および付帯設備の使用料が補助されることとなった。

・大会参加費として、会員は2,000円、一般は両日参加3,000円、一日参加2,000円、大学生以下無料とする。

・大会申し込みは、3月末締め切りの事前申込、事前振込の形をとることとしたい。

・ラウンドテーブルは、以下の内容で検討している。(敬称略)

R1 「絵本の演劇性」 コーディネーター未定

内田麟太郎(絵詞作家) 山口マオ(イラストレーター)

R2 「絵本と人権」 コーディネーター 松本猛(交渉中)

久保敬(交渉中) 紹美恵(解放出版編集者)

R3 「九州から送る絵本の風」 コーディネーター 広松由希子(絵本研究家)

横田幸子(熊本子どもの本の研究会) 高野和佳子(NPO法人ペペペペらん)

・シンポジウムのテーマは「絵本の大衆性」として、パネリストに佐木隆三(作家)、黒田征太郎(イラストレーター)、横山真佐子(児童書専門店主)、コーディネーターに福元満治(石風社編集者)を予定している。

・大会会場へのアクセスに限りがあるため、会員、一般ともに事前に広く告知するよう心がける。

以上の事柄について、報告があり、審議・承認された。

○報告事項

1. 第3回理事会議事録の確認

2. 各委員会報告

1) 企画委員会

今年度の活動は終了し、既に理事会での収支報告も終えている。

2) 紀要編集委員会

今年度、紀要投稿には研究論文8編、研究ノート1編、及びどちら

か明記されていないもの1編の計10編の投稿があった。そのうち、3編の論文を採択、2編の論文を再審査、1編を「報告」という形での掲載で進めている。

3) 機関誌編集委員会

・『絵本 BOOK END2011』発行に向けて、すべての原稿がそろい、編集も終了、初稿は近日中に執筆者へ発送される予定である。2月初旬納品予定。「NEWS」の発送に合わせて会員へ送付する。

・株式会社朔北社との『絵本 BOOK END』の制作・発売委託に関する契約の改正について、学会への献本数(前回600部)を、今回は630部で契約し、今後は会員数の増減によってその都度見直すこととする。

4) 研究委員会

・今年度の活動と収支報告があり、事務局へ余剰金が返金された。

・3年間の活動報告は『絵本 BOOK END』に報告する。

5) 広報委員会

・次号NEWSは2月下旬頃に発行し、『絵本 BOOK END2011』とともに会員へ発送する予定である。学生インタビューは次号の掲載を予定している。

3. その他

大会準備期間中に発生する大会実行委員の交通費は大会運営費の中で賄うとともに、大会準備、内容、収支報告はすべて大会事務局において行なうことが確認された。

○審議事項

1. 会員の入退会の承認(敬称略)

新入会員：松本崇史、大坪恵理子、藤田百合、信岡朝子、横山泰子、奈良裕美子、山畠幸子

2. 研究助成金決定の通知について

・研究助成に関して、助成先決定後、事務局より通知書を発行することとし、年度内に収支決算をお願いする旨を伝えることが確認された。

3. 第14回絵本学会大会での余剰金について

第14回絵本学会大会での余剰金は、いったん学会会計に繰り入れた上、東日本大震災関連のしかるべき機関に寄附することが検討され、財団法人大阪国際児童文学館、毎日新聞社主催の「被災した子どもたちに本を送る『いっしょだよ』キャンペーン」に寄附することが決定された。

4. 次期役員選挙について

・3月末新理事候補決定までの予定が確認された。

・選挙管理委員は会員の丸尾美保、向井弘子、浅野法子の3氏で構成されることが承認された(敬称略)。

・理事候補者募集の締め切り後、候補者として推薦された方に候補者名簿掲載の可否を確認した後、候補者名簿を作成し、投票用紙とともに会員へ発送する(2月下旬に会員へ発送するNEWSと『絵本 BOOK END2011』とともに発送予定)。

5. その他

1) 会員の転居先不明にともなう除籍について(事務局)

連絡がとれない転居先不明の会員は、理事会で確認後、除籍の対象となることが確認された。

現在、転居先不明の会員:本田幸、上杉和大、前田直子、佐藤直人(敬称略)

2) 各委員会収支報告の書式について(事務局)

前年度の学会収支報告の際、監事より各委員会の収支報告を統一した書式にするほうがわかりやすいとの指摘を受けたことから、統一書式で報告することが確認された。

3) 絵本学会主催の絵本コンクールについて

設立を検討する。作品部門と研究部門を設け、若い作家や研究者を奨励する意図のもと、賞の名称や内容等の構想について各理事からの提案を事務局でまとめ、次回の理事会で審議することとする。

次回絵本学会理事会は、2012年4月 8日(日) 13時半より、日本女子大学児童学科会議室にて開催される。

● 第15回 絵本学会大会研究発表者募集

すでにご案内しておりますが、あらためて第15回 絵本学会大会研究発表者および作品発表者募集します。

○研究発表募集要項

1. 発表者の資格: 絵本学会の会員で、2011年度までの会費を納入済であること

2. 発表テーマ: 絵本及び絵本に関連のある研究テーマで未発表のもの

3. 発表時間: 発表 20分間 質疑応答 10分間

4. 申し込み要領:

1) 発表テーマ、2) 発表者の氏名・住所・電話 FAX番号・メールアドレス、

3) 所属機関名・職業など、4) 発表要旨(800字程度)、5) 発表時に使用する機材(パソコン、PCプロジェクター、書画カメラ等)

以上の1)~5)について、パソコンで横書き入力したものをA4用紙に印刷し、絵本学会事務局宛てに郵送(FAX、メールは不可)してください。また内容をワードのファイルで FDまたは CDに入力して同時に送ってください。なおワードがお使いになれない場合は大会事務局にご相談ください。

5. 申し込み締切: 2012年3月31日(土) (事務局に必着)

6. 発表者の決定: 研究発表は、原則として無審査とします。発表順・時間等は、4月末までにお知らせします。

*受理した原稿等は返却しませんので、必ず控えをとってください。

● 第15回 絵本学会大会作品発表者募集

大会会場に会員の作品を展示し、会期中の所定の時間に出品者自らが制作趣旨を口頭で発表します。

○作品発表募集要項

1. 発表者の資格: 絵本学会の会員で、2011年度までの会費を納入済であること

2. 発表作品: 未発表の絵本(個人制作、共同制作ともに可)

3. 発表形態: 判型・サイズ・頁数等は自由

原画を原寸でカラーコピーしたシートの全画面と、カラーコピーなどで製本したものを1冊出品すること。

4. 申し込み要領

1) 作品タイトル、2) 発表者の氏名・住所・電話 FAX番号・メールアドレス、

3) 所属機関名・職業など、4) 原画サイズ・枚数

以上の1)~4)について、A4の用紙にパソコンで横書き入力したものを、絵本学会事務局宛てに郵送(FAX、メールは不可)してください。

作品は絶対に郵送しないでください。発表者自身が、直接会場に搬入します。

5. 申し込み締切: 2012年3月31日(土) (事務局に必着)

6. 発表者の決定: 作品発表は、原則として無審査とします。作品搬入の期日・方法等については、4月末までにお知らせします。

口頭発表の順・時間等は、4月末までにお知らせします。

【申し込み先】

〒567-8578 茨木市宿久庄2丁目19-5

梅花女子大学こども学科 香曾我部秀幸研究室内 絵本学会事務局

お知らせ

●絵本関係展覧会情報

●安曇野ちひろ美術館

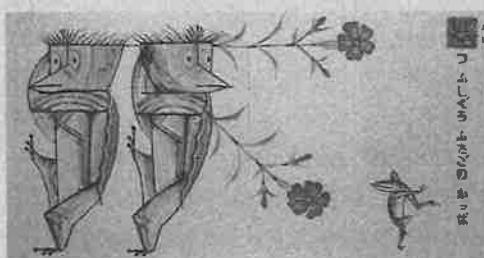
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原
0261-62-0772, 0261-62-0774(Fax)

<http://www.chihiro.jp/azumino/>

【展示】ドキュメンタリー映画公開記念展 ちひろ27歳の旅立ち
安曇野開館15周年記念 ピエゾグラフによる「わたしのちひろ」
展

12.3.1(木) - 5.8(火)

【企画展】瀬川泰男遺作展－輝くいのち－
12.3.1(木) - 5.8(火)



●ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2
03-3995-0612, 03-3995-0680(Fax)
<http://www.chihiro.jp/tokyo/>

【展示】ちひろと香月泰男－母のまなざし、父のまなざし－
開館35周年記念 ピエゾグラフによる「わたしのちひろ」展
12.3.1(木) - 5.20(日)

●板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27
03-3979-3251, 03-3979-3252(Fax)
<http://www.itabashiartmuseum.jp/art/index.html>

【企画展】安野光雅の絵本展
12.2.25(土) - 3.25(日)

●絵本美術館&コテージ 森のおうち

〒399-8301 長野県安曇野市穂高有明2215-9
0263-83-5670, 0263-83-5885(Fax)
<http://www.morinoouchi.com/index.html>

【企画展】森のおうち所蔵絵本原画展
12.1.20(金) - 3.13(火)
【企画展】蜂飼耳作品絵本原画展
12.3.16(金) - 5.15(火)

●軽井沢 絵本の森美術館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町風越公園182
0267-48-3340, 0267-48-2006(Fax)

<http://www.museen.org/ehon/index2.html>

【企画展】「マザーグースと童話展～ひらいたかこの世界～
12.3.1(木) - 6.11(月)

●世田谷文学館

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

03-5374-9111, 03-5374-9120(Fax)

<http://www.setabun.or.jp/>

【企画展】都市から郊外へ－1930年代の東京
12.2.11(土) - 4.8(日)

●射水市大島絵本館

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
0766-52-6780, 0766-52-6777(Fax)

<http://www.ehonkan.or.jp/>

【展示】工藤ノリコ 絵本原画展
12.2.4(土) - 3.29(木)

